アジア・アフリカ図書館だより

第6号
令和2年11月

貴重･希少資料『改造日報』（原紙）の新たな発見について

新型コロナウイルス感染拡大のため3月末から臨時休館になったまま2020年度を迎えておりましたが、6月2日より制限付きではありますがようやく再開館に至りました。新型コロナウイルスの感染拡大の収束が何時になるのか見えない状況ですが、アジア・アフリカ図書館では適切な対策を講じて皆様の利用に供することが出来ますよう、日々努力を重ねている次第でございます。

そんな中、アジア・アフリカ図書館の母体であります アジア・アフリカ文化財団の専務理事である木村実季氏によって、戦後間もなく上海で発行された邦字新聞『改造日報』が新たに発見されました。これは、アジア・アフリカ文化財団及びアジア・アフリカ図書館の創立者であります故菊地三郎氏の遺品整理中に、同氏が保存していたものが発見されたものです。詳細は本文見開きページにて紹介していますが、『改造日報』は1945年10月から翌1946年8月まで原則日刊で上海在留の日本人社会向けに発行された邦字新聞で、これまで所蔵が確認されているのは「上海図書館」と「国立国会図書館」だけのようです。今回発見されたものには、これらの図書館に所蔵が無い日付を持つ新発見の紙面も多く含まれています。この新聞は、終戦当時上海に在住していた日本人官民の思想改造や民主化・引き上げがどのように行われたかを知る上で貴重な資料と考えられます。菊地氏は当時朝日新聞の上海支局に赴任しており、『改造日報』の刊行に関わったものと思われます。

アジア・アフリカ文化財団においては、菊地三郎氏のご遺族の方々の了解を得て、アジア・アフリカ図書館での公開に向けて検討を進めています。作業が進み、公開の詳細が決まりましたら、改めて皆様にお知らせしたいと存じます。

コロナ禍の中皆様におかれましては、ご健康にお過ごしくださいますよう願ってやみません。これからも引き続きアジア・アフリカ図書館に対するご支援をよろしくお願いいたします。

写真は、発見時の
『改造日報』の様子

図書館長あいさつ

アジア・アフリカ図書館長　小倉　正雄

2020年に入り新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、アジア・アフリカ図書館でも様々な変化がありました。3月に開催予定だった2019年度「アジア・アフリカを知る集い」は中止になり、4月～5月の緊急事態宣言下では、休館を余儀なくされるなど、多くの利用者にご迷惑をおかけしました。幸いにも緊急事態宣言が解除になり、感染症対策をしながら6月より再開館することが出来、市民の方々のご利用も回復してきています。

とは言え、感染拡大予防の観点から2020年度の特別展示は中止が決定し、講演会なども開催が危ぶまれる事態となっています。コロナの影響は甚大でありました。

暗いニュースばかりではないのが救いでもあります。巻頭の記事でご紹介している通り、当財団理事長であった故菊地三郎先生ご所蔵の『改造日報』が発見され、大変貴重なものであることがわかりました。詳細については後続のページで紹介していますので、ご参照いただけたらと思います。

大変な環境の中、活動にも制約はありますが、アジア・アフリカ図書館は皆様にご利用いただくために、日々尽力してまいります。

引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

戦後上海の邦字新聞『改造日報』について

何時、何処で、誰が発行した新聞か?

発行期間：1945年10月～1946年8月？
発行地：　上海
発行所：　改造日報館
発行人：　中国国民政府軍 第三方面司令部 総司令 湯恩伯
主編人：　陸久之（第三方面軍少将参謀）

誰に向けて・何のために出された新聞か？

言　語：日本語（邦字新聞）
対　象：上海在住の日本人居留民（日僑）約　7万人
　　武装解除した日本軍将兵（日俘）約12万人
部　数：上海 26,500部、上海外 350部、総数26,850部
目　的：侵略思想の糾正と粛清 ➡ 民主主義の啓蒙

『改造日報』はどこに保存されているか？

上海図書館徐家滙蔵書樓 所蔵（原紙）208日分
国立国会図書館 所蔵（マイクロフィルム）34日分
スタンフォード大学フーヴァー研究所 公開（HP）34日分
菊地三郎先生所蔵（原紙）155日分

改造日報
湯恩伯
第二號
中國陸軍第三方面軍司令部・人行發
國幣一角・定價
改造日報館・所行發
電話 編輯部 七六八一四
電話 營業部 二九二一四
電話 〇一五三四

『改造日報』の史料としての意義

『改造日報』は、アジア太平洋戦争終結後に日本の占領下にあった上海を接収した中国国民政府軍（第三方面軍）の湯恩伯総司令官が、上海の日本軍官民の思想指導（民主化）のために刊行した邦字新聞です。わずか1年足らずの期間しか発行されなかった新聞ですが、当時の上海居留民社会の状況や日本人軍官民の内地への引揚げの様子を伝える貴重な歴史資料だといえます。

また、国共合作から国共分裂にいたる中国国民党と中国共産党との微妙な関係性を物語る史料でもあります。

『改造日報』の歴史的背景
— 戦時・戦後の上海 —

1937年 7月　盧溝橋事件、8月第二次上海事変
　↳ 日中全面戦争始まる
1940年 3月　汪精衛が南京で政権樹立
1941年12月　アジア太平洋戦争勃発
　↳ 日本軍が上海共同租界に進駐
1943年 1月　日本が「対華新政策」を実施
　↳ 日本は汪精衛政権に租界を返還
1945年 8月　日本軍の無条件降伏
　　9月　国民政府軍が上海を解放
　　10月　国共両党が「双十協定」を締結
　↳ 国民党と共産党が内戦を回避し、平和的な中国統一に向けた機運
　↳『改造日報』創刊（10/5）
1945年12月　在上海日本人の送還開始
1946年 4月　日本人の引揚げ一段落
　　8月　国共内戦始まる
『改造日報』終刊か？（不詳）

アジア・アフリカ図書館初代図書館長 菊地三郎先生（1904-1995）

1904年　浅草に生まれる
1922年　大正期の反戦文学運動『種蒔く人』運動に参加
1923年　大震災での被災を機に上海へ渡航
1924年　上海で西本省三（白川）に師事
　上海からの帰国後は『萬朝報』など新聞社に所属
1930年　『農村の崩壊』などの著作を世に問う
1931年　朝日新聞社に入社
1943年　インドネシアに特派、『ジャワ新聞』の編集に携わる
1944年　中国に特派
1945年　『改造日報』の創刊準備に参画
1946年　上海より引揚げ、東京で中日文化研究所を創立
1947年　中国木版画を日本に紹介する「中日木刻運動」を展開
1955年　〝郭沫若文庫〟建設運動を発足
1957年　第六代住友総理事・小倉正恒翁とともにアジア文化図書館（〝郭沫若文庫〟改称）を創立
1962年　アジア文化図書館をアジア・アフリカ図書館に改称

発見された『改造日報』原紙の希少性とアジア・アフリカ図書館との関係性

『改造日報』の原紙は上海図書館にしか残っておらず、日本国内でも閲覧できる場所は限られています。菊地三郎先生が保存していた原紙155日分（切抜・破れなどの毀損のある物も含めれば178日分）には、上海図書館でも閲覧できない1946年5月分が含まれており、大変希少なものだといえます。

アジア・アフリカ図書館の創立者である菊地三郎先生は、敗戦後の上海において『改造日報』の創刊に参画し、その活動は中日文化研究所やアジア・アフリカ図書館における文化活動の起点となりました。

その希少性・貴重性について

	日数	上海図書館	国会図書館	菊地先生所蔵
1945年10月	27日	26	0	25
11月	30日	30	2	28（1）
12月	31日	31	28	29（2）
1946年 1月	31日	29	4	29
2月	28日	15	0	0（4）
3月	31日	30	0	1（9）
4月	30日	27	0	21（6）
5月	31日	0	0	20
6月	30日	11	0	2（1）
7月	31日	7	0	0
8月	5日	2	0	0
計	305日	208日	34日	155日（23日）

※（　）内は切り抜き・破れなどの毀損がある日数（外数）。
※フーヴァー研究所による公開は国会図書館所蔵分と重複。

『改造日報』については、以下の文献を参照しました。
高綱博文「敗戦直後の上海における『改造日報』について」（『研究紀要』, 日本大学通信教育研究所, 2015年3月）
趙　夢雲「敗戦後上海の日本語新聞：『改造日報』の誕生と終焉」（『植民地文化研究：資料と分析』, 2013年12号）

図書館情報 ～図書館の活動と近況～

▶ 新型コロナウイルス感染症対策

図書館として「出入り口などに消毒用薬剤を配置する」「窓口にシールドを設置する」「座席の間隔を十分にとる」などの対策を取るとともに、利用者の皆様にも以下のようなご協力をお願いしております。ご理解の上、アジア・アフリカ図書館をご利用ください。

- 当分の間、平日は正面玄関を含めすべてのドアがロックされます。玄関わきのインターホンを押して開錠を依頼してください。
- 正面玄関エントランスで「手の消毒とマスクの着用」をお願いします。
- 図書館への入館は、2階入り口横に置いてある専用インターホンで対応させていただきます。
- 貸出、返却だけでなく、閲覧等の館内利用も可能ですが館内の混み具合や長時間の滞在に関しては、お声掛けさせていただく場合があります。

▶ 研究者の来館

2019年8月に郭沫若の孫にあたる国士館大学教授の藤田梨那先生が、中国四川大学（中国文学）所属の李怡先生を伴って郭沫若文庫の見学にいらっしゃいました。

▶ 特別展示

昨年度は、『食から見たアフリカの生活文化』と題して、地球上の陸地の五分の一を占めるアフリカについてその食文化をターゲットにしてご紹介し、多くの方にご覧いただきました。今年度は、いまだ収束の兆しの見えない新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながら新規展示の開催を見送らざるを得ないこととなりました。

▶ 開館６周年記念行事“みんなみフェスタ”

三鷹市立南部図書館と共催で、2019年11月23日に開館6周年記念行事が行われました。北京の児童書出版「小活字」編集長、日本華人教授会理事、日本華僑華人文学芸術界連合会会長の唐亜明（タン ヤミン）さんによる『絵本「西遊記」朗読とトーク　中国伝統楽器「揚琴」の演奏付き』やアジア・アフリカ語学院生が参加した留学生交流イベント「アジアのことばでストラップをつくろう」などが開催されました。

▶ 「アジア・アフリカを知る集い」

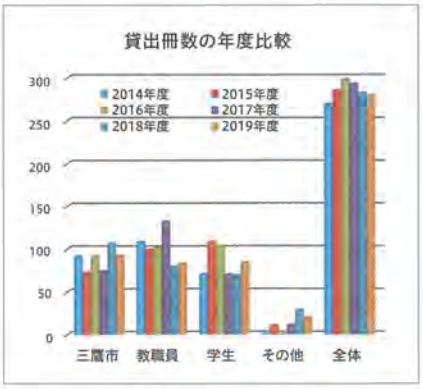
毎年1回「アジア・アフリカを知る集い」を行っており、昨年度は本年3月1日の第28回において、『人類生誕の地 アフリカの食と料理～料理本の出版で学んだアフリカの智慧～』と題して、NGO「アフリカ理解プロジェクト」代表で、国際理解に関する本の企画出版、講演会・セミナー開催、情報提供、国際協力活動などを行っている白鳥くるみ様をお招きして講演会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス（COVID19）の感染拡大により中止せざるを得ませんでした。

▶ 古書のリサイクル市

毎年、図書館では、古本のリサイクル市を開催しています。昨年度も2020年2月29日、3月1日の両日にわたって実施したところ、多数の方が参加して無料のリサイクル本を持ち帰られました。今年度も来春の開催を予定しています。

▶ 2014年度－2019年度の利用状況比較

アジア・アフリカ図書館利用者は、年々増えていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大による休館等で、若干減少となりました。



公益財団法人　アジア・アフリカ文化財団経営　アジア・アフリカ図書館
開館日：火、水、金、土、日（第3水曜、年末年始を除く）　開館時間：平日＝12時～17時、土・日：9時半～17時
〒181-0004　東京都三鷹市新川5-14-16　　Tel：0422-44-4640　　Fax：0422-46-5107